

救命救急センター

きどがわ ひでお
センター長 木戸川 秀生

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医
日本救急医学会 専門医
日本消化器病学会 専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定医（消化器・一般外科）
日本腹部救急医学会 認定医・暫定教育医
ICD制度協会 インфекションコントロールドクター
日本腹部救急医学会 評議員
福岡救急医学会 評議員
九州外科学会 評議員
日本外科感染症学会 評議員
日本内視鏡外科学会 評議員

卒年

平成元年



センターの紹介

当院の救命救急センターは1978年10月に九州で2番目の救命救急センターとして開設されて以来、北九州地域の三次救急医療体制の中核施設としての役割を果たしてきました。2018年12月に新病院へ移転し新たな第一歩を踏み出しているところです。

新病院では、1、救命救急医療、2、小児救急医療、3、災害支援医療を政策医療に掲げています。北九州市西部地域の2次、3次救急を担う救命救急センターであり、免震の大型屋上ヘリポートはヘリ搬送患者の受け入れ拠点として運用されています。また、病院敷地内には常設型救急ワークステーションができ、北九州地域の救急業務メディカルコントロール体制における中核施設として活動を行なっています。

取り扱う主な疾患

急病者は救急科医師と各分野の専門医師が協働して初療にあたっています。入院が必要な場合は担当診療科が引き継ぐ体制です。重症者は、小児、成人とも救命救急センターで対応しますが、小児軽症者は小児救急・小児総合医療センターが担当します。24時間の診療体制で、平日勤務時間帯はおもに救急科医師が担当しますが、時間外・休日は、内科系、外科系、小児科医師あるいは応援医師が担当します。365日・24時間入退院が可能な病棟として、救急病棟、ICU/PICU、小児救急病棟合わせて約100床の救急病床を準備しています。

センター連絡会議は毎週開催され、救急医療体制に関する事項を広く協議する会議です。構成員は、院長、副院長、統括部長、各センター長（救命救急センター、小児救急・小児総合医療センター、災害医療研修センター、消化器・肝臓病センター、外傷・形態修復・治療センター、心不全センター）、関係部門の責任者（救急関連の診療科、看護部、医療支援部、事務局）及び消防機関（救急ワークステーション）が参加し、週間および月間救急患者動向（救急入院患者数、消防救急車受入件数・応需率、CPA事案、ドクターカー出動事案など）を分析・報告しています。

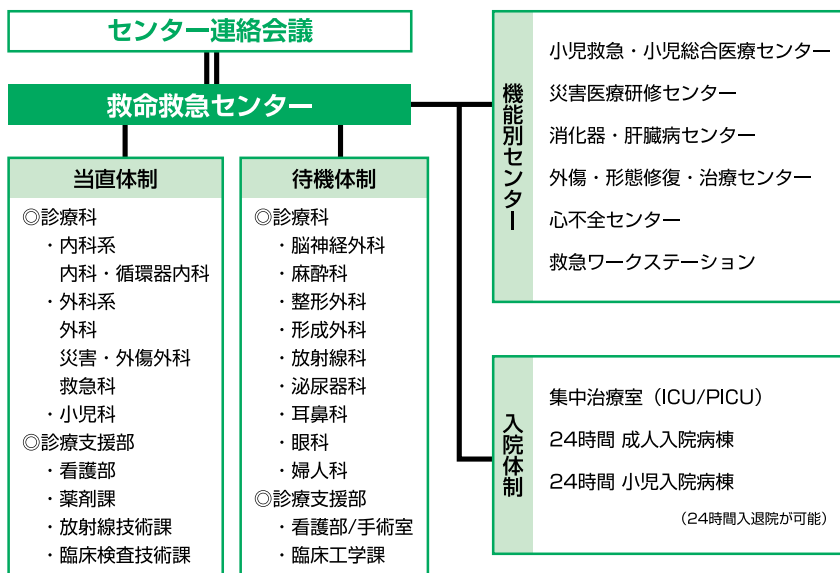


図1：救命救急センターと他の院内センター、関係部署との連携図

が参加し、週間および月間救急患者動向（救急入院患者数、消防救急車受入件数・応需率、CPA事案、ドクターカー出動事案など）を分析・報告しています。

当科の特徴

若手医師の研修体制

初期研修医の先生は、救急科研修を通じて、平日時間帯は救命救急センター担当医の指導助言のもと、センターに救急搬送された内科、外科系患者の診療に携わっています。救急科領域専門研修プログラム（八幡病院エキスパート研修プログラム）に基づき、専攻医が救急領域研修を行っています。研修医、専攻医においては、初期対応患者が緊急手術となるような場合は、手術にも参加出来ます。また、専攻医は、病院前救護とメディカルコントロール体制を学ぶため、当院敷地内に設置されている救急ワークステーションにおいて消防救急車の医師同乗指導に参加します。

多数傷病者発生事案においては、当院DMAT隊員と共に実際に災害出動します。また、災害訓練への参加を通して日頃から災害訓練の重要性を学び、消防防災ヘリコプター講習会にも参加します。

救急救命士の実習体制

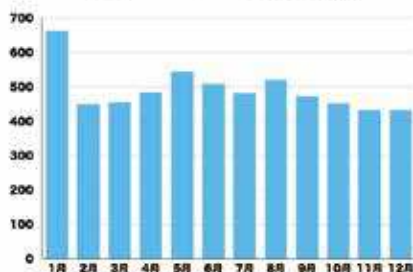
当救命救急センターは、北九州地域の救急救命士に対する再研修、就業前実習、薬剤認定救命士実習、救命救急九州研修所の病院実習など、年間90名以上の実習生を常時受け入れています。こうした研修は、おもに救急部の担当看護師が中心となり、実習カリキュラムの作成から静脈路確保手技まで直接指導を行っています。また、医師による診断内容の解説、救急外来・一般病棟業務、手術室業務の見学実習、臨床検査技師課、放射線技師課での研修など、搬送傷病者の病院収容後の診療経過が広く学べる体制となっています。今後は、海上保安庁に属する救急救命士の病院実習等も行います。

常設型救急ワークステーション活動

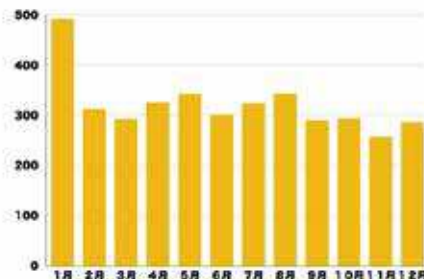
救急ワークステーション（WS）は、2008年6月に当院敷地内に開設されました。平日日勤帯は病院前医療、メディカルコントロール体制を熟知した当院のMC医師が常駐し、救急隊への同乗指導を行っています。現在、年間300～400症例の医師同乗指導を行っています。出動対象は、心肺停止症例のみならず、すべての救急事案に同乗出動することで、軽症、中等症事案の緊急度判定や搬送先選定への的確な指導が可能です。現場での直接指導に加え、帰還後直ちに活動事案を検証することで、救急隊員への教育効果はさらに高くなります。このように、救急隊と救急医（MC医師）が密に連携する取組は全国から注目されており、多数の関係者が見学に来られています。

令和元年度の診療実績（センターに関わる実績）

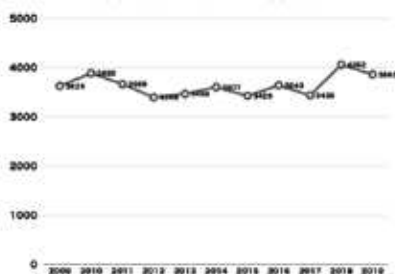
救命センター 受診者数 2019年



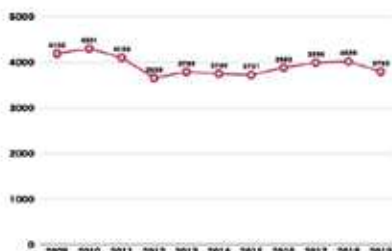
救急車搬入数 2019年



年間救急車搬入件数



年間救命救急センター入院者数



救命救急センター受診診療科 2019年

